

ごみ 日和57

特集：若い世代に本物の味を伝えたい！
～京都上賀茂の「森田農園」の挑戦～

ごみ減量会員さん訪問記「ごみ減の会員さんってどんな方？」：
KBS京都 アナウンサー 海平 和さん

雑記帳：ごみ減の「モノ」語り 米櫃
これっているかしら？ コーヒー飲料のプラふた

ごみ減 活動報告：
ごみ減量モデル事業 助成団体決定！
もっぺん出張所&環境クイズin市役所前フリーマ

地域活動レポート：ワークショップ形式で開いた
地域ごみ減量推進会議 全体会議

野菜も人も同じ。

一生懸命愛情を込めて、

手間暇惜しまず世話をすると、

必ず応えてくれるんや。

農家は、食べ物だけを育ててるんと違う、

人の生命を守り、育ててるんやで…

写真 藤田一美（事務局）

「ごみ日和」は、京都市役所、各区役所・支所のエコまちステーション、
京都市図書館、京都生協（市内店舗）などで手に取っていただけます。
最新号・バックナンバーもウェブで公開中！ <http://kyoto-gomigen.jp/>



手をとりあって ごみを減らそう！

京都市ごみ減量推進会議

🔍 ごみ減

検索

若い世代に本物の味を伝えたい!

～京都上賀茂の「森田農園」の挑戦～

「森田さんとお野菜は美味しい!」この言葉が一番嬉しい、と森田さんは仰います。京都の上賀茂で100年以上続く森田農園では、野菜の成長に合わせて最適手助けをすることで、野菜が本来持っている美味しさを最大限に引き出します。すくすくと育った野菜は艶やかで深い味わいに。中には不揃いなものもありますが、その一つ一つに価値を見出し、大切に消費者に届けるその姿勢には、野菜を愛してやまない森田農園の心意気が窺えます。更に、森田農園では、農業が抱える課題や可能性についても積極的に取組み、様々な立場の人たちと協力して、より良い食文化、より良い社会作りを目指しています。そんなバイタリティ溢れる森田農園代表の森田良彦さんをはじめ、農園を支える皆さんに、美味しい野菜作りに秘められた想いを伺いました。

ようこそ、『おいでやす』



旬の野菜が並ぶ「おいでやす」の店頭

地下鉄北山駅から歩くこと数分、賑やかな表通りを北へ進むと、住宅地の一角に森田農園の直営販売所『おいでやす』が見えてきます。道路に面したお店を覗くと、季節の野菜が所狭しと並んでいます。この販売所は、平成4年から森田さんのお母さんが切り盛りをされており、常連さんから初めての方まで、店先には明るい会話が絶えません。野菜の美味しい食べ方ももちろん、お漬物の漬け方や四季折々の食材についてなど、この道70年のお母さんのお話は、懐かしさと新鮮さで溢れています。実はお母さん、『おいでやす』を始めるまでは、この農園の朝取り野菜をリアカーに積み、お得意先へ回る振り売りをされていた。森田農園の基本理念である“安心・安全な野菜を届けたい”という想いと、“食べる人の声を聴く”という真摯な姿勢は、作る人から食べる人へ、お野菜と共に愛情と笑顔を手渡してきた振り売りの経験からも裏付けられた信念です。

トマトだけでも 20 種類!

店先に緑色のトマトが並んでいます。あれ? まだ熟れていないのかな? と思いきや、「これはこんで食べ頃ですねん。」とお母さん。森田農園では他にも黄色、オレンジ、黒いトマトなど、珍しい品種も含めて約20種類を栽培しており、その中にはスーパーやレストランのシェフから、こんな品種を作って欲しいと依頼があったものも多いのだそうです。実際に畑を見せて頂くと、大人の背丈程もあるトマトの苗木がずらりと並び、実の形や色の異なるトマトが、たわわに実っていました。黒々としたやわらかい土の心地よ



い匂い、そしてトマトの酸っぱいような香りも五感を刺激します。案内をして下さった森田農園の植田玲洋さんから、落ち葉堆肥やもみがらを肥料として使っているなどのお話を伺いながら、色艶の良い摘みたてのトマトをいくつか頂き

ました。その瑞々しさとしっかりとした味や歯ごたえに感動しながら、植物の生命力と農家の方の創意工夫によって、食の可能性は無限なんだ! と感じる事ができました。

食べる人の顔が見える関係を

畑の見学を終え、森田さんと共に農園近くの洋食レストラン『Can de Sun』(キャン・ド・サン)へ。このお店のオーナーシェフである明石寛一さんも、森田農園の野菜を使った創作料理を得意とされています。「どうぞ食べてみて!」と出して下さったのは、森田農園のトマトを使った特製カレー。独自に調合したスパイスに生姜をきかせ、トマトの酸味とピリリとした辛さは暑い時期にぴったりです。森田さんも「うまい、うまい!」と満面の笑み。畑の恵みを通して、生産者とシェフの会話は弾みます。野菜の個性によって料理の仕方が変わり、また料理によって野菜の作り方、選び方も変わってくる…。お互いの顔が見え、意見を言い合える関係こそが、森田農園の野菜を更に美味しくする秘訣でもあります。「わしはな、若い人に本物の味を知って欲しいんや。健康な土で育った新鮮な野菜は甘くて美味しい。その本来の美味しさを体感してもらえるように、料理教室をしたいと考えとって、今準備してるとこなんや。」森田さんの目が輝きます。「畑で育っている野菜を、見て・



森田農園代表 森田良彦さん

触って・嗅いで・味見しながら一緒に収穫して、それを調理してみんなで食べる。そこでの経験は、本物の味を知り、生命を大事にする食生活を見直すきっかけになると思うんや。」明石シェフも力強く頷きます。「森田さん、やろう!」「うん、協力してんか。」ここでもまた一つ、森田さんの想いが動き出しました。

人を育てる農業へ

森田さんは、よく周りの人から“どうしてそんなに次から次へアイデアが湧いてくるのか?”と質問をされるそうです。「どうしょうか、こうしょうかと試行錯誤してるからアイデアが出るんや!」その豪快な笑顔の裏には、今、農業が直面している新規就農の受入問題、農業による環境負荷軽減への取組み、子どもの食アレルギーの改善、農作

物の新たな加工方法の研究など、多岐に渡る課題があります。森田さんは、息子の晃司さんの意見も取り入れ、野菜が繋ぐ人との縁を大切にしながら、これらの課題へ挑戦し続けています。野菜作りは人づくりと同じ、愛情を込め、手間暇を惜しまず世話をすると必ず応えてくれるといいます。農業での経験を、人づくり、町づくりに活かす森田農園の挑戦は、私たちが失いかけている身近な生命への感謝の心と、豊かさの原点とは何かに気付かせて下さいませ。

森田農園直営販売所『おいでやす』

住所 ▶ 京都市北区上賀茂池端町39-1
電話 ▶ 075-712-4889
営業 ▶ 10:00~18:00
定休 ▶ 不定休

Can de Sun (キャン・ド・サン)

住所 ▶ 京都市北区上賀茂豊田町50
電話 ▶ 075-702-0701
営業 ▶ 19:00~24:00
定休 ▶ 不定休



「ごみを減らすために
こういう努力があるんだってことを、
ちゃんと伝えなきゃいけない」

アナウンサーから見た 京都の“ごみ”対策

KBS京都 アナウンサー うみひら海平 なごみ和さん

全国ネットの番組もいけれど、地元の放送局が発信するご当地の情報は、とびきりフレッシュでホット。お祭り、イベント、素敵なお店のオープンなど、軽快なフットワークでその模様を伝えてくれます。そして、こころ温まるニュースがあれば、お茶の間にも、なごみの時間が生まれます。京都の放送局と言えば、KBS京都。KBS京都さんは、実はごみ減の会員さんなのです。今回は人気女子アナから見た京都のごみ減量シーンについてお話をうかがいました。

環境について考える機会を作りだす放送局

KBS京都（株式会社京都放送）はテレビ局とラジオ局を運営する放送局。京都に住む人々にとってKBS京都が発信する情報は、電波のライフラインと呼んでも大げさではない大事なものです。

そしてKBS京都は放送のみならず、これまで、環境問題に対するさまざまな取り組みを行ってきました。たとえば京エコロジーセンターと京都市青少年科学センターを会場に、これからの未来を創る科学とエコを親子で体感していただくという

イベント「未来フェスタ京都 科学×エコ」を京都市教育委員会、京都市ごみ減量推進会議などとともに主催したり、親子でココ・コーラウエストの京都工場を見学し、英語と環境について学んでみようという企画「Let's Enjoy 英語で環境 "Eco-Factory Tour" in English」を共催するなど自然保護活動を楽しく学べる催し物に数多くたずさわって、日夜お茶の間に伝えていきます。

「なごみん」の声がお茶の間になごみの時間をもたらす

放送を通じ、人と自然との共存について考えるヒントを伝えてくれるKBS京都。今回はそんなKBS京都を代表し、入社4年目、「なごみん」の愛称で親しまれる新鋭アナウンサー海平和さんにお話をうかがいました。

そのまま読むと「うみ・へいわ」。環境問題を伝えるのにぴったりのお名前です。

「京都生まれの京都育ちなんですけれど、よく『沖縄出身ですか?』『お父さんは海上保安庁にお勤めなの?』と訊かれます。実は父の名前が海平和男なので、一字取っただけなんです。父は本当は『すくすくまっすく育てほしい』という想いから

“たけのこ”っていう名前にしたかったらしいです」

たけのこなら、ニックネームは、のこちゃんになっていたでしょうか。やはり、なごみんがしっくりきますね。海平さんの声は、テレビはもちろん、ラジオからでも笑顔が伝わってくるほがらかさがあります。お名前の通り、観る人や聴く人のこころをなごませる効果がある気がします。



会員さん募集! あなたもごみ減の会員になりませんか?

京都市ごみ減量推進会議は、つながりや創意から生まれる様々な活動を展開することにより、ごみを減らし、環境を大切にしまちと、暮らしの実現を目指しています。市民、事業者、行政で取り組み、きっとできる! 当会議では、ともに活動する会員を募っています。詳細は、事務局へ問い合わせください。TEL:075-647-3444

京都人でも意外と知らない祇園祭のごみ対策

京都市左京区で生まれ育った生粋の京都っ子、海平さん。KBS京都では現在ラジオ番組『森谷威夫のお世話になります!!』(月曜日から木曜 10時~14時)にて、水・木曜日のラジオカーリポートを担当されています。

このコーナーではラジオカーで京都の各地へ出向き、おしゃれなカフェや街の最新情報などを現地からお届けしています。そして京都にお住いの方でも意外と知らない環境問題をテーマとした取材も行っているのです。海平さん自身、環境に関するリポートを通じて初めて知ったことも少なくはないのだそう。

なかでも驚いたのが、祇園祭における地元の方のごみ減量対策。京都ではあつて当たり前の恒例行事だと思いがちな祇園祭。しかしそこには、京都の美観を損なわぬよう、地元の方々のひたむきな努力があったのです。

「祇園祭のリポートを毎年担当しています。祇園祭の宵山の時期って夜店が出るので、よりいっそう楽しいんです。私も幼い頃から何度も行ってました。でもその裏側で、地元の方々を悩ませていたのが、ごみ問題。夜店のあとは、特にごみが多

取材は勉強。ときには小学生から教えられることも

ラジオカーリポートを通じ、京都で暮らす人々の環境への尽力を知ることができたという海平さん。時には小学生にさえも、それを教えられることがあるのだとか。

「環境問題に取り組む京都市内の小学校を順に紹介してゆこうという企画がありまして、私はこれまでおよそ10か所の小学校をめぐるしました。なかでも強く印象に残っているのが伏見区の醍醐小学校です。ここでは、近くの醍醐寺から出た落ち葉を小学生が拾い集め、自分たちで堆肥を作り、シダレザクラのクローン苗木を育て、東日本大震災の被災地・岩手県宮古市の

まずは職場の机の上から。身近なことから始まるリユース

そして、海平さんご自身も、職場でごみを減らす工夫をしています。

「放送局って、台本やニュース原稿など、どうしても紙ごみがたくさん出るんです。なので使用後は四分の一サイズに切って、アナウンス部のメモ用紙にしています。いっときは使用済みコピー用紙を切るのが私の一番の仕事でした(笑)」

ほかにも海平さんが働くアナウンス部並びに制作部のフロアでは、放送・収録機材には使えないものの、家電程度なら問題なく使える容量が残った乾電池の持ち帰りを奨励していました。小さなリユース(再使用)、リデュース(ごみの量を減らす)。

いんです。そこで祇園祭山鉾連合会(理事長 吉田孝次郎氏)の皆さんが美観を守るため『祇園祭クリーンキャンペーン』を行っておられ、KBS京都もそのお手伝いをさせていただいています。これは鉾町の各所に1500個以上のダンボール製クリーンボックス(ゴミ箱 80×50×50 青・緑・赤の印字3種セットで分別を促す)を設置し、ゴミの散乱を防止し、すみやかな回収に努めようという取組です。さらに他所から観光に訪れた人たちから『祇園祭ってきれいなお祭りだな』という印象を持ってもらうために、山鉾巡行の日は吉田理事長はじめ、ボランティアの方が朝4時から、ごみが落ちていないかを見廻っていらっしゃるのだそうです。『世界中に自慢できる街にしたい』って。今年で23回目になるのですが、実はアナウンサーになるまで、祇園祭のかげでそういう努力があったなんて知らなかったんです。そして、『今年の見どころだけではなく、ごみを減らすためにこういう努力があるんだってことを、ちゃんと伝えなきゃいけないな』と、改めて思いました」

小学校へ届ける計画を実施しているんです(京の杜プロジェクト)。水やりも子供たちが毎日して、日記も毎日つけて。インタビューした小学2年生の子が『心をかけてあげるだけ、ちゃんと育つと思う』『これを見て東北の方が元気になってくれたらうれしいです』とはっきりと答える姿に、胸を打たれました。そして『小さな子供たちがこんなにちゃんと考えてるんやから、この子供たちに対して、大人は恥ずかしい行動をしてはいけない』と、我に返りましたね」

でもとても大切なこと。海平さんたちKBS京都で働く方々は、テレビやラジオを通じ、日夜そんな大切なことを伝えてくれているのです。



電話機のメモ用紙



乾電池のリユースBOX

うみひらなごみ 海平和さん PROFILE

1987年生。京都市出身。同志社大学卒業後、2010年4月KBS京都入社。テレビは「トクするテレビ 京都ふらり〜」、ラジオは「森谷威夫のお世話になります!!」「栢木寛照 熱血説法 こころのラジオ」「なごみんビルエット」などに出演。なごみんの愛称で親しまれる。
海平和さんブログ:「ふわり、和のこころ」<http://www.kbs-kyoto.co.jp/announcer/es/umihira/>
KBS京都: <http://www.kbs-kyoto.co.jp/>

昔の生活は、おのずと持続可能なものでした。昔の道具（モノ）を通じて「その道具を取り囲む昔の人々の暮らし方を今に生かせないか」を考えるコラムです。

米櫃（こめびつ）

西陣の町家の女将に米櫃を見せてもらった。長方形の米櫃は真ん中に仕切りがある。左右どちらかの米から使われていくのだが、当然減っていく過程がわかりやすい。一方が底をつくとお近所のお米屋さんが新しい米を調達しておいてくれる。通い帳には入れた米分の金額を書いておく。



月末には集金されるという仕組み。ご存知のように京の町家は商家である。家族以外にも雇われ人や丁稚さんなどが共に暮らす。従って米の消費量も多くなる。そこへ機転を利かしてお米屋さんが米を欠かさず調達してくれる。

これもお米屋さんと生活者の信頼関係が無ければ成立しない。現在のように企業と消費者の距離が遠い状況では生まれないといえる。それを可能にしているものは無数にある。町家の主人や雇用人が積極的の町の行事に参加していたこと。町家の住居構造。みちにご近所さんたちの立ち話の花が咲いていたこと。さまざまあるが、要はご近所さんというシステムがよく機能していたことが挙げられる。すなわち良くも悪くも「ご評判」が立つ。へたなことをすれば商いに大きな影響を及ぼす。これは一大事だ。

だから、正直であること。勤勉であることが大切にされた。

どうしてこういう事を書いたかと言うと、市場を食いつくさんばかりの「あの手この手」で販売合戦を繰り返す現在の

経済システムを、どうしても考え直さなければならない。そのヒントがそこにあるからである。信頼を前提とした商いが、持続可能な状態で存在しながら、しかも、町すなわちコミュニティが豊かに保たれる。そんな相互補完的に機能していた素晴らしいビジネスモデルがあったということだ。

私たちが忘れていたものが、今も静かにこの町、京都には息づいている。

思いだすことをしないで新しいモデルを追いかける人々にちょっと考えて欲しかったのである。

大橋正明（こごみ日和編集長）

『市民等からの提案によるごみ減量モデル事業』助成団体決定！

ごみ減量の取組など循環型社会の実現に向けた取組に対する助成事業で、21団体より応募いただき、10団体を採択しました。今年度より、上限を100万円として一部人件費が認められる「先進的モデル事業助成」を新設し、ごみ減量の新たな仕組づくりやモデルとなる事業を選考しました。

今回採択した「先進的モデル事業」は、有限会社ひのでやエコライフ研究所の事業。上京区の室町エリアにて、室町地

域ごみ減量推進会議をはじめ、地域ボランティア団体と協働で、衣服を材料に、ごみ減量に興味がある人も、無い人も、気がついたら楽しく体験できる2Rのイベント等を1月頃に開催予定です。

また、地域の特徴を生かして取り組む事業を対象とした「地域活動事業助成」は9団体が活動中。助成団体等、取組内容については、当会議のウェブサイトをご覧ください！

もっぺん出張所&環境クイズ in 市役所前フリーマーケット

京都市役所前広場 7月7日(日)

毎回多くの人で賑わう市役所前フリーマーケット。衣服や靴、本や家庭雑貨など、家庭でいらなくなった物が所狭しと並べられています。フリーマーケットは、「いらなくなったら、いる人へ」を合言葉に、誰もが気軽に参加できる“リユース”の取組で、毎回多くの方に参加いただいています。

その会場で、買った服をリペア・リメイクできる！「もっぺん出張所」を開催。

今回は、「もっぺん」*に登録いただいている衣服等の修理の専門家にリペア・リメイクをご指導いただき、長袖シャツを半袖にお直ししたり、柄の素敵なTシャツをエコバッグに作

り変えたりと、参加者の皆さんにも楽しんでいただきました。

次の「もっぺん出張所」は、12月8日(日) 洋服のお直しと靴や靴の修理の店が展覧します！！
「ここだけちょっと直したい」「こんな風にしてみたいんだけど・・・」修理やリメイクの相談など、お気軽に声をかけてください！

*「もっぺん」とは・・・お直し（修理）ができるお店を紹介するウェブサイト。衣服、靴、オーディオ、家具などの修理ができるお店を、現在185店舗掲載しています。

もっぺん 検索で検索できます



これって、いるか？ 第2回 コーヒー飲料のプラふた

このコーナーでは、暮らしの中にある「なんとなく使っているけど、本当にいるのかなあ？」というものに注目して「これをやめれば、ごみも減るよね」というものを紹介していきます。

今回の話は、環境問題とごみ問題をテーマにして生きている身としては、お恥ずかしい限りなのですが、告白します。わたしは無類のコーヒー好きです。しかも、缶コーヒーはあまり好きではありません。できれば、ちゃんとドリップしたコーヒーを飲みたいと思っています。でも、外出先で、まさかドリップするわけにもいきませんし、毎回喫茶店に入るほど小遣いが多いわけでもありません。

そんなときにお世話になるのが、写真のようなカップに入ったコーヒーです。個人的には缶や紙パックのものよりは、いくらか味がよいと思っています。そんな私が、買うこのコーヒーですが、どうしても気になるのが、ドテツと乗ったプラスチックのふたです。ご存じかとは思いますが、このフタとは別に、中にアルミ箔のフタがあり、密封されています。どうしてこのプラスチックのフタが必要なのか。おそらく、コーヒーショップで買ったような雰囲気味わうためだと思うのですが、そのためにこの3グラム(!)のフタを使わなければならないのか！と叫びたくなるのです。



▲ちょっと余計ではないかと思われるプラスチックのふた

齋藤友宣（事務局）

いらなくなったエコバッグ大募集！

右京区民ふれあいフェスティバル2013 10月26日(土)

右京区地域ごみ減量推進会議では、スーパーマーケットでレジ袋の代わりにエコバッグを貸し出す「レンタルエコバッグ」の取組を進めています。

おうちでダンスの肥やしになっているエコバッグがあれば、10月26日(土)に開催される「右京区民ふれあいフェ

スティバル2013」会場（太秦安井公園・右京ふれあい文化会館）の右京区地域ごみ減量推進会議のブースにお持ちください！まだ使えるものなら、新品でなくてもOKです。ご提供いただいた方にはエコグッズをプレゼント!! お待ちしています！

地域活動レポート

ワークショップ形式で開いた 地域ごみ減量推進会議 全体会議

増え続けて163団体が活動

地域ごみ減量推進会議（以下、地域ごみ減）。それは、京都市ごみ減量推進会議（以下、京都市ごみ減）を特徴づける機構。組織の中核とも言える。全国各地でごみ減量活動が行われているが、地域ごみ減のような仕組みを持つ団体は少数ではないか。

1997年京都市ごみ減発足当初、2団体であったが、17年後の現在は全区に広がり、今や163団体（2013年9月現在）。使用済てんぷら油の回収をはじめ、地域清掃、古紙・古着の回収、フリーマーケットや環境学習会の開催など、それぞれに活動を展開している。

これって会議？ 自己紹介もゲーム感覚で

7月31日に開かれた「平成25年度地域ごみ減全体会議」を覗いた。キャンパスプラザ京都の2階会場には円形テーブルが7つ置かれ、41



円形テーブルが、和やかさを演出

団体の地域ごみ減の代表たちが思い思いに腰をおろしていた。14時30分京都市ごみ減事務局武田係長のかけ声で開会。山内地域活動実行委員長、高月会長、牧村事務局長の挨拶、報告や事業計画の説明、活動レポート紹介と進んだ後、ワークショップがスタート。

これまで、地域ごみ減の全体会議は毎年開催されてきたが、ワークショップ形式を取り入れたことはなく、主に活動報告などが行われていた。

まずは、自己紹介から。といっても通常の方法ではない。ここではA4サイズの白紙に自分の名前と所属と「私が捨てたい物」を記入し、それを持って自己紹介。各人の発表に笑いが起き、その後、会場に張りつめていた緊張感は一気に打ち解け、和やかな空気になる。

みんなで考え、みんなで語る。 大切なのは分かち合うこと。

次は、テーマに基づき自由にアイデアを出し合うプログラム。まず「使用済てんぷら油倍増計画！」をテーマに

3分間。ここからは、各区から集まったエコまちステーションの職員も加わり、テーブルに置かれたポストイットに思いをつくままアイデアを書く。最初はとまどった表情を見せた人もだんだん調子が出てきた様子だ。書き留められたアイデアは、大きな紙に貼って



各テーブルでアイデアを発表。右が加藤会長

いく。そして次のテーマ「私の水切り、ちょっとしたコツ」へと進む。2テーマのアイデアが各テーブルでまとまったところで、代表1名が全員の前で発表する。「何かもらえるものがあれば、てんぷら油はもっと増える」、「回収ボックスのデザインを魅力的に」など、出された案もいろいろ。このワークショップでは、共に取り組むことの意味を共有できたのではなかろうか。

自主性を引き出す、きっかけとなった

出水地域ごみ減（上京区）会長の加藤アイさんは、「今までとは違い、会話を楽しみ、交流できた」と初めての形での全体会議を評価。地域ごみ減の活動の重要性を十二分に踏まえ、ワークショップという形での全体会議開催を進めてきた山内実行委員長。活動の幅を広げるためには自ら発案し、自ら動く自主性が大事であり、「今回はその意欲を刺激し合う機会になった」と期待をふくらませる。

京都市が平成22年3月に策定した「みんなで目指そう！ごみ半減！循環のまち・京都プラン」では、平成32年までにピーク時のごみ量の半分以下を目指すとしている。地域ごみ減に関わり、活動する市民は数千人。京都市は平成22年より「エコまちステーション」という環境行政の窓口を各区役所・支所に設置し、市民がごみ減量に取り組みやすいよう体制をとっている。エコまちステーションの職員の参加も得て行われた今回の全体会議。地域ごみ減に関わる市民と、手を合わせることで、平成32年までにピーク時のごみ量の半分以下という目標に近づけるのではないかな…。光を見た全体会議であった。

森田知都子（平成25年7月31日取材）